

# 令和3年度 宮城県社会福祉協議会事業報告

## 『経営理念』

宮城県社会福祉協議会は、本県における地域福祉推進の中核機関として、市町村社会福祉協議会をはじめ、福祉諸団体、NPO法人、ボランティア等幅広い関係者との連携・協働のもと、高い公益性とともに民間法人としての自主性、創造性を発揮して『誰もが身近な地域で安心していきいきと暮らせる地域づくり』に取り組み、豊かな福祉社会の実現を目指します。

## 『経営方針』

- 1 被災地域の再生に向けた市町村協等と連携・協働による継続支援
- 2 地域住民が支え合う地域共生社会実現のための“地域づくり”の推進
- 3 地域における福祉サービスの担い手の支援
- 4 質の高い福祉サービスを支える体制の構築
- 5 各種団体とのネットワークの強化
- 6 より信頼される法人を目指した運営基盤の強化

## 『令和3年度事業の基本的な考え方』

近年の地域福祉を取り巻く環境は、少子高齢化の急速な進展に伴い、家族間や地域における支え合いが脆弱化するとともに、複合的な要因による生活困窮、社会的孤立や8050問題など、福祉ニーズが複雑化してきており、既存の社会保障や福祉政策では対応しきれない状況にあります。

そうしたなか、国は地域共生社会の実現へ向け、社会福祉法を一部改正し、その取組を強化することとしており、新たな取組として「重層的支援体制整備事業」を創設し、地域住民が抱える複雑化・複合化する課題を、属性や世代を問わない包括的な支援体制により受け止めることとしています。

宮城県社会福祉協議会（以下「県社協」という。）としても市町村社会福祉協議会（以下「市町村社協」という。）をはじめとした関係団体と協力し、市町村が円滑に事業を実施できるよう支援し、さらには多くの地域住民、関係機関が参画・協働し取り組めるよう、意見交換や事例の提供を行う場を設置するなど、地域共生社会の実現へ向け積極的に取り組んでいきます。

現下の新型コロナウイルスの感染拡大によって、地域における市民活動、地域づくりが停滞し、あわせて福祉人材の確保・育成の機会が減少するなど、著しい影響を受けておりますが、「新しい生活様式」を踏まえた事業展開により、その課題解決に努めながら、運営施設、事業所においても感染予防の徹底に取り組み利用者の安全、安心の確保に努めます。

また、東日本大震災の発生から10年を迎えましたが、被災地域の再生に向け市町村社協等と連携・協働により、継続して新たな地域づくりに向けた活動や地域福祉活動等の支援を行います。

県社協では、これらの社会動向・地域状況を踏まえ、平成30年3月に策定した宮城県社会福祉協議会第二期地域福祉推進計画（以下「地域福祉推進計画」という。）に基づいた各種事業の推進とともに、東日本大震災発生からの10年を検証し策定した「被災地（者）支援指針・提言」に基づき、被災地域の再生に向けた取組の継続と、その指針、提言の普及、理解促進を図りながら、市町村社協をはじめ、福祉諸団体と一層連携し、限られた財源の効率的な活用、各種事業の充実、施設・事業所の適正な運営等、組織体制の強化を図ります。

以上により、県社協の理念・使命を果たすため、次の事務事業に取り組みます。

## 事業報告の概要（主な事務事業）

令和3年度は、前記の経営理念・方針に基づき、次の事務事業に取り組みました。

### 1 大震災における被災地域の市町村協の支援を通して、地域福祉推進の観点から被災住民等の自立・生活再建に努めます。

〔地域福祉推進計画…基本目標1－(3)〕

12,886,217円

#### (1) 被災地域市町村協への支援

被災地域市町村協が多様な課題を抱える被災者への支援と併せ、住民主体の地域づくりに取り組めるよう亘理町社協、南三陸町社協をはじめとした11市町村協へ合計80回訪問し被災市町村協の個別ニーズに対応した定例会議や地域福祉活動計画の策定に繋がる支援を行いました。

被災地支援連携復興会議や広域支援団体連携担当者会議を開催し、支援機関が地域課題等を共有し、関係機関や被災地の取組を内陸部社協へ伝える等の支援を行いました。

#### (2) 地域コミュニティ構築支援

被災地域市町村協が要支援者の見守り活動や助け合い活動の仕組みづくりなどを支援できるよう、被災地域対応事例研修会の開催や自治会、民生委員等が行う勉強会で講話を行い、災害公営住宅等を含む地域で新たに生活する住民同士の交流やつながりづくりに向けた支援を行いました。

#### (3) 「被災地（者）支援指針」を踏まえた各種事業の実施

震災から10年の節目にあたり策定した「被災地（者）支援指針」に基づき、市町村社協会長、事務局長会議などで今後発生が想定されている大規模災害に備え、内陸部を含む県内市町村社協等への指針の普及、理解促進を図りました。

### 2 住民主体の“地域づくり”を進める市町村社協・NPO法人などとの連携・協働を図り、地域福祉活動を推進します。

〔地域福祉推進計画…基本目標1－(1)(2)(4)〕

93,111,342円

#### (1) 地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の構築

地域共生社会の実現に向けて行政、社協、関係機関等を構成員とした「宮城県地域共生社会推進会議」を県との連携・協働により2月に設置、開催（参加98団体）し、気運の醸成を図りました。

コミュニティソーシャルワークの視点を持つ人材を育成するため基礎研修や実践研修を実施し、社協及び地域福祉関係職員の資質の向上に取り組みました。

## (2) 地域福祉活動の推進

地域福祉の活動を住民組織と共助で効果的・効率的に実践するために「地域福祉活動計画」策定に係る支援を6市町村社協に行いました。

地域福祉推進のため、市町村社協をはじめ宮城県民生委員児童委員協議会、各種別協議会・NPO等の関係福祉団体と情報共有を行いました。また、就労移行支援事業所が行う職場実習に協力するなど新たな生活課題の解決に取り組みました。

介護予防・日常生活支援総合事業等の円滑な実施に向けた市町村支援のプラットフォームとして、宮城県が設置する「宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議」の事務局運営業務を通して、市町村が取り組む多様な生活支援ニーズに対するサービスの充実を図りました。

## (3) 市町村社協の基盤強化と社協間のネットワークの充実

市町村社協との連携により、連絡・調整、活動支援等、各種事務事業を展開するとともに、市町村社協職員地域福祉基礎研修会、社協職員の資質向上を図る勉強会を開催するなど、運営充実に向けた支援を行いました。

さらに、宮城県市町村社協連絡会によるネットワーク、関係づくりの充実を図りました。

## (4) 地域福祉の推進のための情報の発信

地域福祉推進のための情報発信の機会として実施を予定していた宮城県社会福祉大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため規模を縮小し表彰のみを行い、社協フォーラムは中止としました。

広報誌「福祉みやぎ」を6回発刊、ホームページを316回更新するなど幅広く発信し普及啓発に努めました。さらに、ホームページのリニューアルを行い、閲覧者の利便性の向上を図りました。

## (5) 令和元年東日本台風における被災者見守り・相談支援事業を実施する町社協への支援

令和元年東日本台風における被災住民が自立し、安定した日常生活を営むことができるよう丸森町社協11回、丸森町役場9回、大郷町社協22回訪問し、地域や被災住民の実情に応じて地域のコミュニティ活性化に向けた相談・助言等を行いました。また、被災者支援従事者研修等を実施し、生活支援相談員のスキルアップに繋がりました。

## 3 多様なボランティア・市民活動が、地域でいきいきと展開できるよう支援します。

[地域福祉推進計画…基本目標2-(1)(2)(3)]

103,128,524円

### (1) 多様なボランティア活動や市民活動に対する支援の強化

市町村社協のボランティアセンター（以下「社協VC」という。）機能充実のため、担当者会議の開催や社協VC運営に関する現地相談を17市町村社協に対し延べ36回実施しました。また、大規模災害等に備え、災害ボランティア

センター設置・運営責任者研修，応援スタッフ研修等を開催するなど人材育成に努め，その体制整備を推進しました。

(2) 地域福祉活動を実践する人材の育成

地域福祉活動推進者，ボランティアコーディネーター等の育成のための研修等を実施するとともに，ボランティア団体・中間支援組織等9団体との連絡会を19回開催するなど，住民主体の地域活動を推進できる人材の育成に繋がりました。

高齢者を対象とした宮城いきいき学園の運営については新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から4月の学習日を5月以降に振り替えての実施となりました。学園生の自主企画による地域貢献活動を実践するなど地域貢献活動へ参画できる人材育成に努め82人が卒業しました。

(3) 地域住民への福祉教育などの推進

市町村社協と協働し，住民に対する福祉教育・防災教育を切り口とした福祉活動を通して小地域福祉活動の活性化を図り，その地域の特性に応じた活動が行えるよう，ボランティア団体や地域福祉活動推進者を支援するとともに，福祉教育学習会で取組を発表する機会を設け，県内に広く発信しました。

(4) 元気高齢者への社会参加の支援

高齢者のスポーツや文化活動を通して生きがいや健康づくりを促進するため，高齢者のスポーツ・文化の祭典である第33回全国健康福祉祭ぎふ大会（ねんりんピック岐阜2021）への選手派遣の準備を進めましたが，新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。

宮城シニア美術展は12月2日から4日間宮城県美術館で開催し，昨年度より多い210点の出展と664人の来場があり，展示作品を楽しまれる様子が見られました。

**4 福祉サービスを提供する福祉事業者を支え，質の高い福祉従事者の確保・育成を推進します。** [地域福祉推進計画…基本目標3-(1)(2)(3)]

498,299,950円

(1) 福祉に携わる人材の専門性を高める研修の企画及び実施

福祉・介護人材の専門性の向上及びスキルアップを図るため，社会福祉従事者研修，資格取得研修等を新しい生活様式を踏まえたオンライン活用等多様な研修形態により実施し，福祉施設及び事業所等が提供する福祉サービスの向上を図りました。

(2) 幅広い人材確保の取組の推進

福祉人材職業無料紹介事業による福祉の職業紹介と就労斡旋を行い，200人の採用となりました。公共職業安定所や教育機関等と連携した福祉の仕事就職面談会の開催や，年齢等に応じた進路・就業相談，福祉・介護人材の確保・定着に向けた研修等を実施し，就職者の増加に繋がりました。

介護福祉士等修学資金貸付や保育士修学資金貸付・保育士再就職支援貸付・児童養護施設退所者等に対する自立支援資金貸付・ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付の各事業の推進により、人材の確保と定着に努めました。

さらに新規事業として福祉系高校修学資金貸付、修学資金返還充当資金貸付及び介護就職支援金貸付（介護分野、障害福祉分野）を実施するなど、福祉人材確保の取組を拡充しています。

### （3）福祉事業者への経営支援の実施

現状の問題・課題について社会福祉法人等のニーズに対応するため弁護士、公認会計士、社会保険労務士等の専門員相談による社会福祉経営相談を実施するなど健全な経営基盤を確立できるよう支援を行いました。

県内の福祉施設のサービスの質の向上を促すため、福祉サービス第三者評価事業機関として社会的養護関係施設の評価を行いました。

## 5 県民の福祉ニーズに即したサービスを提供し、県民が安心して暮らせる地域づくりを推進します。〔地域福祉推進計画…基本目標4－（1）（2）（3）（4）〕

9,654,948,291円

### （1）県社協が運営する施設及び事業所での地域福祉機能の強化

県社協が運営する事業所において、住民が主体となって行う小地域における生活支援活動、ボランティア活動などがより多くの地域で実施され、その活動が継続的・効果的に実施されるよう市町村社協と連携・協働しながら、各種講習会、講座などを開催し、圏域の地域福祉の推進に努めました。

### （2）市町村域における包括的な相談支援体制構築の支援

県社協が実施する各相談支援事業において、当該市町村域などの支援機関の一員として横断的なネットワーク化に参画し、包括的な相談支援体制の構築に向けて取り組みました。

### （3）県内の市町村社協、社会福祉法人等における子どもの貧困対策事業への支援

地域における子どもの貧困対策として、子ども食堂や学習支援と食事提供を組み合わせた子どもの居場所づくり等を行う子どもの貧困対策事業を実施している県内の市町村社協、社会福祉法人、NPO法人等の10法人を35回訪問し、行政等の関係機関との連携が図られるよう支援を行い、各事業所で工夫を凝らした事業が展開されました。

### （4）権利擁護の推進

日常生活自立支援事業（まもり一ぶ事業）を通して、認知症高齢者や障害者等で判断能力が不十分な方のニーズに即した福祉サービス利用援助や日常的な金銭管理援助等を行い、地域で安心して暮らせるよう自立支援を行っており、新規契約者は58人、実利用者は477人となりました。

社協職員、県及び市町村行政の担当職員等を対象にした権利擁護セミナーを開催し、地域における権利擁護体制の構築が促進されました。

運営適正化委員会では、福祉サービスを利用する方々からの相談や苦情の解決に努めました。

その他、事業者及び第三者委員を対象に研修会の開催や苦情解決制度の周知を図るため、ポスターやパンフレットを配布するなど広報・啓発活動を推進しました。

#### (5) セーフティネット機能の充実・強化

経済的困窮者や低所得世帯に対し、市町村社協や民生委員・児童委員による相談支援を通じて生活実態を把握するとともに、その世帯に即した生活福祉資金の貸付けによる自立支援に努めました。

新型コロナウイルス感染症による緊急小口資金等特例貸付の貸付決定件数は19,515件、貸付金額は8,433,000千円となりました。また、償還計画に基づき適正に償還されるよう関係機関と連携のうえ債権管理を行いました。

中国帰国者支援・交流センターの運営（日本語学習支援・生活相談・就労支援・地域支援交流等）を通して中国帰国者が地域で安心して暮らすことができるよう自立支援を行いました。

高齢者や障害者等で在宅生活が困難な方々に対して県社協が運営する社会福祉施設やグループホーム等で生活（自立）支援を行いました。

## 6 各種団体が実施する福祉活動を推進します。

〔地域福祉推進計画…基本目標5－(1)〕

1,474,286円

### (1) 各種団体の取組に向けた支援

種別を超えた懇談会の開催や定期訪問・研修・セミナー等を実施するとともに、本会及び種別協議会等の10団体から22項目の要望、提言などを取りまとめ、10月7日に宮城県へ提出し、10月14日に回答がありました。

関係団体からの要望に応じた派遣の実績はありませんでした。

### (2) 災害福祉広域支援ネットワークの構築

災害時における要援護者への支援や避難環境の改善を図るため、福祉関係者と自治体の連携による「宮城県災害福祉広域支援ネットワーク協議会」の事務局運営業務を通じて、部会運営や福祉専門職によるチーム員派遣研修を実施し、支援体制の構築に努めました。

## 7 より信頼される県社協を目指し、組織基盤を強化します。

〔地域福祉推進計画…基本目標6－(1)〕

4,008,741,176円

### (1) 法人機能の強化及び財源確保

コンプライアンス（法令遵守）を基本に事務事業の進捗状況を把握し、計画的な予算の執行，基金の運用，資金の確保など，財務管理と不祥事防止など運営上のリスク管理の徹底を図り，健全な法人運営に努めました。また，限られた補助金，委託費等の効率的な執行や基金の的確な運用を図り運営基盤の強化に努めました。

### (2) 人材確保及び人材育成

適正なサービスの提供及び事業を円滑に実施するため，定年退職者の推移及び実施事業の状況を踏まえて職員を採用するなど人材の確保に努めました。

さらに，県社協職員研修規程に基づき階層別研修を組み立て，新任，中堅，管理者研修の実践により職員一人一人のスキルアップに努めました。また，組織全体として専門職員研修や職員自主企画事業の推進等により専門性の高い福祉人材の育成に努めました。

### (3) 社会福祉施設等の適正な運営

施設・事業所等の運営にあたっては，高齢者や障害児（者）等に対する施設入所支援をはじめ，生活介護・通所介護・相談事業等では，質の高い福祉サービスを提供し，地域で自立した生活が送れるよう適正な運営に努めました。また，高齢化や重度化など利用者の状況に応じた施設整備，改修等を適宜行い安心・安全な生活の確保に努めました。

さらに，近年頻繁に発生している水害・土砂災害等の自然災害への備えを図るとともに，防犯に係る安全対策にも取り組みました。

## 8 新型コロナウイルス感染症への対応

### (1) 感染予防の徹底

各種事業の推進，施設・事業所等の運営にあたっては，サーマルカメラの設置，手指消毒，マスクの着用，三密回避等に加え，各種事業等の実態に即した対策を徹底し感染の予防に努めました。しかし，2月に障害者生活介護事業所の「地域支援センターしんぼし」において，利用者32人，職員18人，世話人7人，合計57人に及ぶ集団感染が発生し，保健所の指導を受け対応しました。通所事業所は一時的に休業しましたが，3月には再開し元の生活に戻っています。

### (2) 他法人で発生時の職員派遣等

県内の障害者施設において新型コロナウイルス感染症が発生し，サービスの継続が困難となり派遣要請があった法人に，県社協として派遣体制を整備の上，職員6人の派遣を行いました。

---

以下，事務局関係事業報告，施設関係事業報告の実績において一部注釈を使用しています。その内容については下記のとおりです。

※1 新型コロナウイルスの感染拡大防止等の影響によるもの